

役立つ日本の授業研究 初心者編
筑波大学教育学系 清水静海

本日は、2000年に日本で開催された9回数学教育国際会議に向けて整理し公開した、『School Mathematics in Japan』という冊子資料を基に研修を進める。

1. 授業を観て頂く前の諸注意

1. 何のために授業をするのか？

意図されたカリキュラム：狙いを実現するための努力、その前提の下に行われる営みである。その授業でどんな力をつけることを目指すのかを授業に先立って分析し、意識せねばならない。

実施されたカリキュラム：思うようにいかないときに、軌道修正する。その原因を考えねばならない。成功、失敗の原因の特定から、次につなげなくてはならない。

達成したカリキュラム：子どもたちの学習成果に現れてくるもの。子どもがどう成長したのか、そのために講じた手立てがどの程度有効であったのか等、指導法をよりよくしておくための重要な情報である。

- ・この3つのカリキュラムが循環して現状を変え、よりよい授業が実現していく。そのためにカウンターパートと協力していく。異なる文化が接触した場所には新たな発想が生まれやすい。
- ・「Teaching Gap」にみられる日本の授業が、日本の教育の根底にある重要な事柄としての授業研究をアメリカに印象づけている。

《Lesson Study》というより、《Jugyou-kenkyu》といった方が通じる程に浸透している。日本のノウハウの一端を海外に伝えていき、カウンターパートとの議論でこの研修で学んだことが役立てば非常に結構なことである。

2. 授業の背後にあるもの

- ・第1に、カウンターパートの方の「授業の捉え方」を確認することが肝要になる。我々が考えている「授業」と同じように捉えているとは限らない。そのずれは個人が悪いのではなく、その地域、国が背景に持っている文化が大変強く影響している。
- ・自分の思いが直ぐに任国の方々に通じるとは決して思わないこと。
- ・肝心なことは、「ああして欲しい。こうして欲しい。」と希望することが沢山あっても、それが実現しない、という原因にはどのようなことがあるのかを深く考えて、徐々にカウンターパートの方々の内面に踏み込んでいくことが大切である。
- ・大抵の協力隊員の任国でのレポートは、初めのうちは「一生懸命やっているのになかなか進まない」という愚痴である。かといって、「俺についてこい」で皆さんのスタ

- イルを押し付けても、それを受け入れる文化的な背景がないと継続性が保障できない。
- ・皆さんが帰った後にも続けられるように、急がば回れです。先生方が「自分がどういう役割をもつのか」ということに、共通理解がある。しかし、このスタイルを変えるのは容易なことではない。国柄、文化的な背景をじっくりと確認して取り組むこと。
 - ・指導案にもみられる《既習事項との関連》などは、日本では当たり前のように思われているが、海外では決して当たり前の内容であるとは限らない。既習事項を把握して指導しないと、一方的に話しかけるのはできるが、子どもが自分の問題として授業に取り組むようにするには不十分である。
 - ・「上手くいったら、なぜ」「上手くいかなかったら、なぜ」と問い続け、質の高い授業を作っていくことが望まれる。また評価基準も、各国の基準に基づくべきものであり、日本の形式については方法論として参考になるが、内容は各々の任地の基準に従って整える必要がある。

これからご覧頂く日本の授業VTR授「小学校2年生：●の数はいくつかな？」及び「中学校2年生：連立方程式の活用」は、日本でも上等な授業である。したがって、それがすぐにできるわけではないが、そういう可能性なり存在なりを頭に描いて授業することがまず大切である。

- ・単に、陳腐な計算練習を繰り返すのではなくて、場面を工夫して練習しながらプラスアルファを期待することが必要である。
- ・このように「連立方程式の解き方を考えていく場面」と「連立方程式をつかって身近な具体的問題を考えていく場面」がある。どの教科であっても、《教科の固有な課題を学ぶ部分》と、《その学んだことを活用する部分》がある。考えるべきところが異なることにきちんと留意すること。
- ・答えの正否も重要だが、それと同様に、例えば目標が「数学を使うときにどんなことに気をつければよいのか」であれば、解答にでない過程に目を向けることが大切であり、授業の意図と、実施された授業のずれを埋めていくことが必要になる。

授業研究の問題点

謙譲の美德の精神から、上手くいかなかった点の検討には時間をかけるが、いいこと（授業のよさ）を問題にしない傾向になる。今、世界的に注目されているのは、日本の優れた点である。授業をみて不満に思うところもあるだろうが、授業者が努力した点などをしっかり認めてあげることも大切といえるであろう。

任国でのご壮健でのご活躍をお祈りします。また日本に戻りましたら、その成果をまた日本の子どもたちにも還元するように、お願い致します。